

令和7年度 第1回 出雲医療看護専門学校教育課程編成委員会（看護学科分科会）

令和7年6月7日（土）

場所：出雲医療看護専門学校 講堂

日時：令和7年6月7日（土）14時45分～16時15分

参加者：田中真美 島根県看護協会理事

多久和かおり 島根県こころの医療センター看護局長

神田眞理子副校長 落合美枝教務部長 鎌田麻美学科長 今若広之副学科長

伊藤裕子実習調整者

I. 下記について学科長より現状報告

1. 実習の現状報告と課題について

1) 現状報告

- ① 実習記録について
- ② 実習要項の見直しについて

2) 課題

- ① 実習施設との情報共有について
- ② 実習指導者と教員の連携について
- ③ 実習指導教員と学内教員の連携について
- ④ 電子教科書の取り扱いについて
- ⑤ 感染症に関連した実習対応について

2. カリキュラム変更後の取り組みと課題について

- 1) 新カリキュラムでの取り組みについて
- 2) 課題：電子教科書の取り扱いについて

3. その他

- 1) 教員の教育力の向上
- 2) 職能団体等、外部との連携強化
- 3) 指導教員の人材確保

II.現状報告後、意見交換

1. ハラスメントについて

田中：ハラスメントによる事案についてどういう内容であったか。

鎌田：昨年度の実習施設で起きたこと。

伊藤：昨年度の事例について、2つの違う施設であったが、1例は体に触れられた事例と、もう1例は言葉でのセクシュアルハラスメントの事例であった。

学生の中で不快に感じた事例であったこと、1名はカウンセリングも受けたこと、実習施設の担当病棟スタッフも以前からセクシュアルハラスメントにつながるような言動を把握していたにもかかわらず、学生の受け持ちの対象として選択されていた。学生はトラウマになりその後の実習や看護師になることに影響を及ぼすことも考えられるため、今年度要項に書面でも示すことになった。また、そのようなことが起きた時に早期に対処できるような連携体制も共通して認識が必要であると考えた。

2. DX化について

田中：いろんな情報がタイムリーにできるようになっているが、学習効果的にはどうか？

鎌田：効果的であるかどうかはまだ学生によって違いがある。

授業資料については Teams を活用しているが、紙の資料を希望する学生もあり、今後の課題である。

田中：タブレットで実習施設ではどのように使用しているのか？

鎌田：電子教科書としてタブレットにあるため、わからないことを調べるなど活用している。

田中：実習記録をその中（タブレット）で行うということはないか？

鎌田：実習記録については基本的に紙である。患者さんの個人情報流出する可能性があるため。教科書の活用が主である。

田中：看護師も AI 技術などを活用しレポートを書いていると聞いたこともある。

多久和：インターネットにつながってはいないのか？

鎌田：教科書はダウンロードしてありインターネットにはつながっていない状況である。一部 PC を使っている学生もあり、実習施設の許可を得ながら使用している。

3. 委員の方から質問

①感染対策について

多久和：感染症の対応はどのくらいの幅があるのか。

伊藤：各施設で細かい部分の違いはあるが大きな違いはない。どの施設も状況は同じである。

今若：実習施設によっては1週間前から健康観察を行っているところもある。

②教員と実習指導者との連携について

田中：実習の中で制限があり、経験できることが少なくなっていると思うが、学生さんが患者さんのところに行けないとか、コミュニケーションで悩むことなどがありますか？

伊藤：実際のところ実習中につまずくことの理由が主には実習指導者や看護師さんとの関係性にあり、現在の実習中でも学校としては問題視している課題がある。実習の現場で学生には、実際の看護師さんの仕事を見学したり、看護師さんと患者さんとのかかわり方などを見ながら「こんな看護師になりたい」と思ってほしい気持ちがあるが、そのような言葉を聞いたことがない。患者さんとのかかわりや看護の展開についてつまずいたり、悩んだりすることが、この看護学生の臨地実習では経験することであり、学びにつながるところだと思うが、実際のところはお互いのかかわる看護師さんとの間でつまずき悩み、最悪看護師になることをあきらめてしまうことになっている。そのような課題に今直面しているところである。

鎌田：中には熱心に指導して下さる実習指導者もいるが、臨床実習指導者との関係性の中で、学生の本来学ぶことができる学びができずにいる状況がある。

教育の方針や実習の内容については学校によってと違うところはある、その理解も得られたうえで実習にご協力いただきたい。

今若：病院が変わったり期間が長くなったり、学生は分からないことが多い、環境になれることからしなければならない状況で、いろいろなことがあり消化しきれない、対応が難しいこともあるが、指導者の方と連携しては進めている。

学生の中では看護師になる動機が薄かったり、コミュニケーションに悩むなどはある。

鎌田：学生のレディネスに合わせて、その情報実習施設の指導者さんへ伝えながらと思っている。

田中：昨年のこの会で神田副校長から教員と臨床の看護師が連携して教育ができるよう研修会などがあると良いというお話があったことから、今年度研修会も予定しているので参加していただきたい。

落合：お互いがお互いを理解し合わないと言問題の解決はできないと思う。

臨床の看護師さんたちにも今の学生について知ってほしい。自分たちが看護学生や新人の時はどうだったのか？を考えてもらいたいところ。ディスカッションする場があると良い。

看護師を育てるという気持ちで一緒に育ててもらえると良い。

実習での指導者との関係性から怖いという気持ちが先に立ってしまう。また、現状若い人たちが医療職から遠ざかっているところがある。

看護師の仕事は命にかかわることであるため、厳しいしつらいことも多いが、今の若い人について知ってもらって、学生の学習の過程などをみんなが理解することが大事だと思う。

多久和：現場で休憩中に世代を超えて話すなどしていないことがある。1人でスマホをかまっていたりする。現場でもいろんな年代でグループワークをするなど機会を設けてもよいと思う。

落合：学生にも自分がつらいと思う気持ちを言わないとわからないので、言える人に言うように伝えている。

実習の中だけでのかかわりだとお互いに知らないため、難しいかもしれない。

お互いの相互理解が必要であると思う。

それぞれの思いがあるので、どのようにそれを知っていくか。

神田：外部教員と内部の教員との思いの差もあるのでは。

外部の先生にも研修など参加してもらえるといいかもしれない。

現場は、指導者は学んできているためわかっているかもしれないが、そのほかのスタッフとして働く看護師では指導方法が違ってくるところがあるのでは。どのようにしてまとめていくか。

お互いの立場はあるが、目的は一つなので、あるべき姿として、学校でも各施設でも理解していかなければならない。

現場の理解も得られるよう学校としても努力していく。

神田：安心な環境を提供することを実習施設にはお願いしたいところ。

田中：心理的安全性ですね。

多久和：この仕事は忙しいから、と学生に伝えることはせず、看護師はこんなにやりがいがあるんだよと伝えられるよう、看護師側の姿勢が日ごろから大事ですね。

鎌田：難しいことや多くのことを伝えてほしいということではなく、ただ一つのことだけでもその意味や理由などを学生に伝えていただけると学生はそこからさかのぼって学びにつなげる。思考発話を難しく考えずに、看護師として伝えられることを伝えてもらえると良い。そうすることで学生もそんな看護師さんになりたい、という気持ちにつながる。

今若：今の世代の学生について知ってもらう。いろいろな学生がいるが理解してもらったうえで広い心で指導していただけると良いと思う。

鎌田：実習が好きだと言っていた学生が、一部の指導者との関係性で進めなくなってしまう。指導の域を超えていたところがあるという保護者からの指摘も受けている。

4. その他

鎌田：今後、教員の研修会への参加や、実習指導者さんとの交流会など企画して進めていきたいと考えている。

落合：精神領域の教員が不足している。精神領域の臨床経験が5年以上ないとできない決まりあり。全国的に少ない状況と思われる。

以上

令和7年度 第1回 出雲医療看護専門学校 教育課程編成委員会（理学療法士学科分科会）

場所：出雲医療看護専門学校 講堂 101 教室
日時：令和7年6月7日（土）14時45分～16時30分
参加者：石田修平（島根大学医学部附属病院）
福田淳（デイサービスサイン）
橋村康二（学科長）、荒木将平（副学科長）

【議題】

1. 臨床実習の現状報告と課題

見学実習の時期について

本来、見学実習はアーリーエクスポージャーとして指定規則で新たに設置された科目である。しかし、現在のカリキュラムでは、2年生の後期に設定されており、アーリーエクスポージャーとしての意義からして不適切であると考えている。これに対し、R7年度（2年夏）→R8年度（2年春）→R9年度（1年秋）へと新カリキュラム申請も含め順次移行していくことを考えている。先般開催された臨床実習指導者会議でも臨床実習指導者からこの案に対する意見を伺ったところ、賛成意見が多かった半面、そこまで早期に実施し学生に何を学ばせるかという疑問も上がっている。

上記に対してご意見をいただきたい。

福田）早期の見学実習は有効と考える。しかし、現在2週間を設定しているが、1週間程度でもよいと思う。目的にもよるが、3日でもよいと思う。また、他校の例から、「見学実習なので見学させてくれ」としか言われていない。こちらからしても、その程度の指示だと見学させざるを得ないこともある。本来はもっとできる学びはあると思っている。つまり、見学実習でも目的や到達度、方針等を具体的に考えるべきと考える。

石田）モチベーションの観点からも1年時からの経験は有効と考える。現在2週間を設定されているが、見学実習としては長いと思われる。他の受け入れ養成校では1週間が多い。従来の臨床実習のイメージが払拭しきれていないのか、そもそも見学実習だからと言って見学のみにする必要性はないと思う。理学療法士として必要なスキルを段階的に身に付け成長することが重要なので、見学実習でもできる業務は経験させ育成していくような文化形成は必要と思われる。

結論）見学実習の時期や期間、また到達度や方針については、いただいた意見を参考にしながら決めていく。各臨床実習科目の到達度の再検討は必要であるが、臨床実習全体の教育方針や方法、内容について改めて考え直し、臨床実習指導者との共有を図り文化形成は必要と考える。

2. DX推進について

DX化が推進されている中で、前回の会議では近年発展している生成AIに関する教育について意見交換した。今回は、理学療法士として働くにあたって必要なDXスキルとは

何か、そこから、学内で学ばせておくべき DX スキルについて検討するための意見交換を行った。

石田) タイピング能力は高いほうが業務効率は高くなるので必要と思われる。エクセルやパワーポイントも使えるようになるといい。AI も様々な場面で活用することが増えてきている。加えて、Googol ドライブやスプレッドシートなど Web 上でのファイル共有や格納、ファイルを共同編集する機会も増えてきているのでクラウドなどの知識や活用も経験させておくといいのではないか。

福田) 石田さんの意見同様。加えて、Excel を活用しプログラミングする場面もある。新人からできる必要性はないが、所属施設では中堅職員で業務の効率化のために活用している。Excel に関しては、業務の見えるかにも使えるので活用の幅を広げ、演習などで活用していくこともありかと考える。

結論) 本校の授業では情報処理が該当すると思われる。また、新カリキュラムも構想予定なので、カリキュラムや授業設計にいただいた意見を生かしていく。

3. 国際医療福祉の授業内容について

本校の教育ビジョンに国際教育がある。従来はアメリカへの研修を行っていたが、コロナおよび円安の影響でオンラインでの対応になっている。しばらくオンラインでの対応が続くことが予想されており、教育の質向上のために人材の紹介やその他代替え案のアイデアをいただきたい。

福田) JICA に参加した PT など召喚してはどうか。本校の太田先生と繋がりあると思うので確認を取られてみては。また川崎医療福祉大学の藤田大介先生はパラリンピックで海外へも行かれている。

石田) 実際、日本も国際化は進んでおり、出雲市にも多くの外国人が移住している状況。そのため、異文化交流として外国人との生のコミュニケーションをとるような場を設けるのも多様な価値観に触れるよい機会になると思われる。

結論) 紹介いただいた人材、また地域内に在住する外国人との交流など含め、授業設計の参考にさせていただく。

令和7年度 第1回 出雲医療看護専門学校教育課程編成委員会（臨床工学技士分科会）

場所：出雲医療看護専門学校 講堂 キャリアセンター

日時：令和7年6月7日（土） 14時45分～16時30分

参加者：錦織 伸司（島根県臨床工学技士会会長）

石飛 有基（出雲徳洲会病院副技士長）

加藤 智久学科学科長 中山 弘幸副学科長

司会進行：加藤智久 書記：加藤智久

1、学科の現状報告

加藤）

最初に学校関係者評価委員会で話をした通り、入学者数が18歳人口の低下などがあり、学生募集が厳しくなっております。昨年1年生は20人の入学生で担任は糸賀の方が担当しており、30名定員ですので入学率としたら66.7%。退学が3年ぶりに出でおり、進級が18人となって1人が原級留置という形でもう1回1年生やっております。

2年生担任が新井でした。退学が1人で進級が11人です。

3年生は11人で担任が中山でした。退学はなく卒業率は100%でしたが、国家試験未受験が1人、国家試験不合格が1人ということで国家試験合格率は90%となりました。

昨年の退学の要因としまして2年生は圧倒的に学力不振と考えます。なかなか勉強ぐせができておらず、取り組む科目すべて再試験があり、勉学に苦戦していた形になります。

1年生に関しては臨床工学技士としての勉強が思ったのとやはり違うと感じてモチベーションの低下と学力不振によるものでした。勉強したことが過去ほとんどなく、学生の姉が作業療法士を目指しており国家試験対策で勉強している姿を見て自分もあれだけ勉強をしなければならないことに嫌気がさして職業変更に至りました。

令和7年度今年の臨床工学技士学科は1年生25人（原級留置1人）で担任は中山がしております。入学率としては83.3%と上昇傾向でした。2年生は18人で担任は糸賀がしております。3年生は11人で担任は新井となっております。

臨床工学技士は高校の先生に認知されつつあり、募集が少しずつ増えている現状となっております。教員で高校訪問を実施し、糸賀と新井が県外方面、加藤が松江安来方面、中山が出雲地区を担当して啓発活動を行っております。しかし、臨床工学技士の認知度がまだ定着してないのも事実です。臨床工学技士、臨床検査技師、診療放射線検査技師とよく混同され、特に臨床工学技士と臨床検査技師はよく職業として間違った認識があるようです。臨床工学技士は患者としても会うことがない職種ですので、なかなか認知が広がっていかないのも確かです。今後の高校の先生に知ってもらい、高校の生徒に伝わっていく流れを作っていくように努力しております。最近は商業高校の子たちが増えているようなイメージはあります。情報系からくる学生が多いです。男女割合としては女子が増えてきました。そこで情

報系高校層、女子層をターゲットするパンフレットを作って啓発もしております。

島根県の現状として広報の効果が少しずつ伸びております。中山が日本の臨床工学技士施設協議会の広報担当をしておりますので説明させていただきます。と

中山)

6月1日に臨床工学技士教育施設協議会がありました。それに参加してきて今年度の問題として大きく取り上げられた部分としては各学校の広報がうまくいっていない、学生募集ができていないことでした。施設協会の広報に関してはインターネットを中心に SNS を使った戦略を以前から打ち出していました。しかし施設協議会の TikTok のアカウントが停止されており代替案として Instagram を使っております。高校生層はインスタグラムをよく使っているので Instagram のアカウントを使って広報活動して行くのはどうかという議論もありました。

厚生労働省のホームページで職業の紹介ページがありますが臨床工学技士の年収が診療放射線技師年収と大きな乖離がありデータが本当に信用できるか、興味がある生徒が厚生労働省のホームページを見たときに誤った情報提供される可能性があり、募集に影響ができてきます。今回の議論で結論はでませんでした、今後検討されていく事項と考えております。

加藤)

養成校に入学しなければ卒業することもできません。認知を上げていくことは必須条件です、教育活動等も行いますが技士会でも応援してほしいです。18歳人口低下もあり全国規模としてやはり学生数が減っているため、短期大学は閉鎖しています。専門学校自体も残って行くところが少なくなってきた大学の方も定員割れもでてきます。

将来の若手が減少しております。病院の募集状況はいかがでしょう。

錦織)

島根県立中央病院は定員募集に集まってきておりますがギリギリの状態です。

石飛)

出雲徳洲会病院では募集を出すと、出雲医療看護専門学校から入ってきていますので、募集してもこないという状況はおきておりません。

加藤)

島根県立中央病院でも定員ギリギリで選べる状況ではなくなってきたのも事実ですが、今後顕著に減少していくのではないかと考えます。

そこで日本臨床工学技士会としての対応策というのはありますか。

錦織)

高校生の募集などに関しては議論されている話は聞いたことがないです。

中山)

募集を出してもなかなか若手が来ないことに対して、施設協議会の方で将来の若手が育成できない。団塊世代がこれから抜けていくとさらに人数が少なくなってくる。マクロ的に

見ると招待的に若手が極端に少なくなってきた病院でも困ることが予想されています。施設協議会の中でももちろんですが、技士会の方でも対応をお願いします。

錦織)

高校生中学生に対して何をアプローチして行くのかということが具体的に話し合われておりません。おそらく何年か後には透析患者数が減少していくのに対して技士の数ばかり増えてもいかなものか等議論されてくると考えております。ではこれから入職してくる人たちはどうしていくかも考えなければなりません。

加藤)

島根県でも技士会の広報が変わってきて認知度を上げていく取り組みをしていると聞きました。

錦織)

S N Sを使って認知度を上げていくのですがその発端として若手委員会が Instagram を利用して技士会活動をアップしていったのがきっかけです。昔は技士会も Facebook を利用していましたがほとんどアップされておらず埋もれていた現状があります。なかなか登録者数が少なく伸び悩んでいます。広報と Y ボードしか活動しておらず、アカウントも活用しきれていない現状です。

加藤)

これから技士会とタイアップして高校生と接する高校の先生に認知向上や情報発信できればと考えております。例年タイアップしているキッズセミナーも参加者が入学してきたケースがありました。それ以外にもできることをやっていきたいと思っております。以前技士会として高校の先生向けに認知調査のアンケートを送ったが返信がほとんどなかったと聞いております。我々が高校訪問の際インタビューもできますしお互いの特徴を生かして広報活動人材獲得に努めていけたらと思います。

錦織)

中学校に臨床工学技士を説明してほしいという依頼が来たことがあり説明をしましたが、高校生と直接会って説明できるならやはり若手が行って話をした方が効果的ですね。技士が行って話をすることが一番効果的だと思っております。

加藤)

高校生の病院見学は効果的であり実際松江赤十字病院を見学して入学してきた学生は松江赤十字病院で働きたい、松江市立病院を見学してきて入学してきた学生は松江市立病院で働きたいと言っております。やはり病院見学をして実際の働き方を見ることにより職業の決め手にもなるし、働くイメージも付きます。今後もどんどんお願いしたいと考えています。

2、臨床実習について

加藤)

5月6月と各15日間で30日間行っております。今年は14施設に依頼しており問題なく進んでおります。今年からカリキュラムの変更があり、今まで4単位180時間から7単位315時間に変更しております。しかし今まで1日8時間計算をすると24日間で180時間になっております。今回の改定では45時間あるうちの30時間は病院で実習、15時間を自宅学習でよいと通達があったため、27日間と自宅学習3時間、この3時間の目安としてレポート用紙裏表1枚を1時間として3枚分で3時間としてクリアとなります。

島根県の施設の方々からは簡単に受け入れてもらえましたが、全国的に見ると大阪東京の施設は質問がかなりあったケースや実習指導者養成講習会を受講してもらえないなどトラブルもあったと聞いております。

中山)

前回の施設協議会で福岡の九州大学の方と飯塚病院の方と話をすることがありましたが、実習をする上で気を付けてることがあり、学生をずっと立たせていることをやめたという話がありました。立たせることが目的ではなく教えることが目的ですので椅子に座らせて詳しく説明を行っているそうです。課題も過剰な課題を行うと学生にとってもスタッフにとっても双方に負担がかかるため適度な量をさせているそうです。

錦織)

臨床実習だけでなく高校生だったり中学生だったり看護体験とかで病院体験に来られることがあります。座ってもらい立っていると気分が悪くなってしまうことが結構多くなり病院が嫌になってしまうことがあるため結構気にしています。

加藤)

最近の高校生の特徴として“やりがいがある”“給料が高い”といううたい文句よりも“プライベートが充実”と打ち出した方が人気あります。自分らしく生活することが今の高校生に必要なことかもしれません。夜勤帯や呼び出し、残業などは負担に思う高校生も増えてきております。本校でも5年前までは給料を重視でバリバリ働きたいという学生よりも生活できる給料でプライベートを重視したい学生の方がやはり多い傾向です。働き方改革の一環かもしれませんね。有給消化率も結構気にする人も出てきております。

3、国家試験について

加藤)

国家試験では今11名いる中で第2種ME技術実力検定試験を不合格であった学生は1名でした。今年も圧倒的に工学系が苦手な学生が多くみられ、例年工学系は40%程度ですが平均が20~30%と低くなっております。

中山)

高校で物理学や化学を選択していない学生は1年次の物理学や化学でモチベーションが

下がり工学アレルギーとなっていきます。3年生で挽回はしますが、年末くらいまで苦手意識が引きずります。

加藤)

実習終了後から工学の対策を行い、年末くらいに臨床系にシフトする対策を行っていかうと考えております。工学系を先に習得しておくことで論理的思考が見につきますので覚えるよりも考える力を身につけマルチに対応が可能となってきます。工学系が苦手な学生は比例して点数が低く、工学基礎ができている学生に関しては秋くらいで国家試験合格基準に到達しています。今年は全員合格を目指していきます。

4、就職について

加藤)

就職内定に関して今年は動きが遅く、まだ就職見学等に動いていない学生がほとんどです。まだ就職に関してイメージ出来ておらず自分のやりたいこと、県外なのか県内なのかもおぼろげな学生がほとんどです。県内就職でもなんとなく県内に残りたいといったあいまいな意見があるため臨床実習後に意識づけをしていこうと考えております。

2年生の冬くらいから病院見学へ行っている学生もおります。

錦織)

実際臨床実習が終わってから就職希望を出す学生が多いのではないのでしょうか。実習で仕事のイメージができてそれをやっている病院を希望するとか。これが面白いと感じて就職するのが多いと思うので業務を知る機会が臨床実習だと考えます。

加藤)

求人も例年通りでおそらく8月から9月がピークとなってくると思います。4月5月は名古屋や東京が多く出ておりますがそれ以外や島根県は8月～11月に多く求人が出ると思っております。今年の求人情報はどうでしょうか。

錦織)

島根県立中央病院は1名新規採用を使用と思っています。

石飛)

臨床工学技士が10人となるので新規募集は市内予定です。内部で退職する職員がいたらその補充に当ててはあります。

5、外部講師について

前任の福田委員より学生のモチベーションを上げるために現場の技士に来てもらい話してもらうことが必要という話がありました。

そこで昨年までは島根県立中央病院と出雲徳洲会病院の技士に外部講師を依頼していましたが、今年は松江市立病院と島根大学医学部附属病院の技士にも依頼をして外部講師数を増やすことができました。臨床工学技士のカリキュラムは医師が講師をしなければなら

にことはないので医師の分野ではなく実務的に技士に外部講師を変更しました。
本当は1科目持っていただきたいのですが、徐々に増やしていければと考えております。
卒業生も授業をもってもらえると嬉しいです。

今年から国家試験の出題範囲が広くなり医療支援技術などの新しい科目や医用機器安全管理学が医療安全管理学となり分野が広がっており実際対策が手探りとなっております。
学生に不利益にならないように対策を講じていきたいと考えております。

以上